

## 教育民生常任委員会 調査活動報告

■調査日／平成22年11月22日(月)

■調査事項／平成28年開催の国民体育大会(サッカー競技)について 秋田県由利市本荘市

学力向上対策について 秋田県横手市

委員長	高橋 寿
副委員長	高橋 盛佳
委員	相原 孝彦
	山谷 仁
	西村 繁博
	山本 博清
	川原

### (1) 秋田県由利本荘市

平成17年3月、1市7町村が合併し由利本荘市が誕生した。平成19年の「わか杉国体」に向け合併後の6月に実行委員会が発足したが、合併前に其々の市町村が競技誘致を進めていた事から7種目の競技を開催することとなった。

西目カントリーパークは平成16年に完工し、天然芝2面のサッカー場である。また、テニスコートや多目的広場(グランドゴルフ可)やチビ子広場なども併設され、憩いの場ともなっている。

西目地区は昭和36年開催の「秋田まごころ国体」でもサッカー競技が行われたことから経験・実績があり、再度の開催となった。

それぞれの競技会場や宿泊形態、交通に関する事、食事の手配など受入態勢の構築には住民の協力が不可欠な事から、事前の啓発事業として凧あげ大会や河川のクリーンアップ作戦なども開催し、住民の意識の高揚を図った。

近年の国民体育大会は既設の競技場を使用し、資金を掛けずに開催する状況にある。しかし、開催迄の住民参画や人をもてなす心の醸成や協働による人間関係の構築などメリットの多い事から、開催に向け早い時期に組織(実行委員会)を立ち上げるべきと考えている。

また、陸上競技場のフィールド内を使用しているが、天然芝の管理や陸上競技との日程競合や開催後のスポーツ振興の観点から、原点に戻り検討して頂きたい。



▲西目カントリーパーク



▲西目カントリーパークサッカー場での調査活動

### (2) 秋田県横手市

全国学力・学習状況調査の結果2年連続して秋田県が第1位に輝いた。その理由について検証すべく、学力向上率の顕著な横手市を視察した。

学力向上の取組みについて、秋田県は平成19年～22年までの小学6年・中学3年の科目別正答率を公表し、県の現状や横手市の現状分析を詳細にしていること、問

題点を明らかにし、その対策が示されていることが現在の学力につながっている。また、子どもに解りやすく目標を明示していることにも着目しなければならないと考えている。例えば「学びの十か条」はわかりやすく単純に示されているが、教育の目的や家族の大切さ等について全て網羅され、子どもにとっての教育指針と教育委員会の

姿勢が覗かれる。

既に報告した敦賀スタンダード〈独自の教育カリキュラム〉・富山の〈明日の富山の教育がめざす4つの観点〉(188号参照)そして横手を含めた秋田県の教育に対する姿勢の一端は本村の家庭教育・学校教育の参考になることから、本村教育関係者に期待し報告と致します。

## 総務常任委員会 調査活動報告

■調査日／平成23年1月14(金)、26日(水)

■調査事項／指定管理者制度導入の検証について  
滝沢ふるさと交流館  
滝沢村総合公園体育館

委員長	斉藤 健二
副委員長	柳村 一
委員	佐藤 澄子
	武田 猛見
	遠藤 秀鬼
	鎌田 忍
	黒沢 明夫

### (1) 滝沢ふるさと交流館(指定管理者：特定非営利活動法人劇団ゆう)

特定非営利活動法人劇団ゆうは、平成17年の指定管理者制度施行時に、公募により指定され、現在2期目の指定管理者となっている。管理にかかる費用のうち、収入は村からの指定管理料が大部分を占め、予算の制約のある中、警備の直営化等あらゆる面で経費節減に努めている。管理面において、「金を使

わず、知恵を出す」の精神で取り組む気構えが感じられ、少ない職員での努力が見受けられる。

自主事業については、子育て支援を中心に読み聞かせコンサート、チャグホ塾など村の直営ではできなかった住民サービスの向上が図られている。

特に、全国に同様の文化会館施

設が1,750箇所あり、平成21年度にその中から優秀5館に選出されたことは、特筆すべきことであり評価に値するものと思われる。

全国・東北・県公立文化協議会加盟に係る会員及び会費の負担金は、行政が担うべきと考えられる。

指定管理の期間については、今後、検討する必要があると考える。



▲ふるさと交流館



▲ふるさと交流館での調査活動

### (2) 滝沢村総合公園体育館(指定管理者：財団法人滝沢村体育協会)

財団法人滝沢村体育協会は、競技スポーツの振興と生涯スポーツの振興を担い、村からの事業委託及び総合公園体育館他屋内3ヶ所、屋外8ヶ所の指定管理業務を受託している。

「民間にできることは民間で」という考え方により、住民ニーズに効果的、効率的に民間能力を活用し住民サービス向上が図られているか、また、施設の運営が適正に行われているか等調査した結果、施設管理については、警備の直営化、清掃業務の一部を職員で実施、施

設の整備業務の一括発注による経費削減等に努めており、利用者からの苦情、不満もあまりないことから概ね良好と思われる。

自主事業については、地域総合型スポーツクラブの「チャグチャグスポーツクラブ」16教室、「たきざわっ子いきいきクラブ」等が事業展開されている。

また、職員が有している資格を活かして住民サービスに努めているが、PR不足で住民に浸透していない面があると考えられる。

事業展開する上で、管理業務と

委託業務の棲み分けが必要と思われるが、村教育委員会との連携を密にして円滑な業務運営を望むものである。

なお、現職員の苦労が大きいものと察するが、会計監査で指摘されている問題点の解決を早急に図り、その努力が報われることを期待するものである。

雇用安定、専門的知識を活かす上で村として指定管理の期間を検討する必要があると考える。